



雪谷の清流

平成31年1月15日発行
岩手県立軽米高等学校通信 32号
文責:副校長 松場 喜美夫

授業始め式

平成31年1月11日(金) 視聴覚室

年が明けました。皆さま本年もよろしくお願ひいたします。今年が良い年でありますように。学校は、1月11日(金)に授業始め式を行い、本年のスタートを切りました。

校長講話で、高橋校長は次のようにお話しになりました。

この年末年始、岩手出身のプロスポーツ選手が連日話題に上がっていましたので、彼らから学びたいことを話したいと思います。

年末に岩手が生んだJリーガー、鹿島アントラーズの小笠原満男選手が引退を発表しました。盛岡・大宮中から大船渡高校に進学して、全国高校選手権では2度の優秀選手、鹿島入団後は3連覇や年間最優秀選手賞、ワールドカップにも2大会連続出場しました。イタリアのクラブチーム経験もあり、海外で活躍する岩手出身アスリートの先駆けとなりました。「鹿島という素晴らしいチームでここまでプレーでき、鹿島で引退できることをとてもうれしく誇りに思う」とふり返っていました。

小笠原選手の高校時代の監督は、斎藤重信という保健体育の先生です。軽米高校の60周年の記念講演では講師をしていただいております。12年前、58歳の時の全国高校選手権85回大会では、心臓手術から2ヶ月後にもかかわらず、斎藤先生の母校である盛岡商業高校を岩手県勢初の全国優勝に導きました。先生自身も壮絶な指導者人生を歩んできた先生ですが、「いつも自分で決めて自分で行動する。そうしてここまで来た」、「私と一緒にやってきて、日の丸を付けてくれたことを誇りに思う」と、小笠原選手が貫いた信念を称賛していました。

年明けには、花巻東高校出身の西武、菊池雄星投手のメジャーリーグ、マリナーズへの移籍が発表されました。また、スキージャンプでも盛岡中央高校出身の小林陵侷選手がジャンプ週間、完全総合優勝などで活躍しています。

彼らのように、世界を舞台に「夢」を追いかけることは、とても素晴らしいことですし、幸せなことだと思います。しかし、並の努力では到底及ばない厳しい世界であることは想像できます。小さいときから土曜日や日曜日は練習漬け、色んなことを遠ざけたり我慢したりしながら、自分にとって一番大切にしたいものを優先してきたのだと思います。「夢は持つもの」、「目標は達成するもの」と言われますが、どちらも前向きに「成功」したいと思う気持ちに変わりはなく、大きな違いは無いように思います。強いて言うなら、目標にはプラス、「成功」するために何をやるべきかという具体的な努力や対策が明確になっていることだと思います。夢は、叶うか叶わないかわからない壮大な理想だとすれば、その夢に近づくための一歩一歩の努力の結果が目標の達成となるのではないのでしょうか。その積み重ねが夢の実現ですから、夢を持たなければ、目標も自ずと定まらないことになるのです。斎藤先生は「夢は叶う」と言っています。全国優勝とか、Jリーガーや日本代表選手を育てるなどということは、普通の指導者には夢の話かも知れませんが、しかし、斎藤先生は夢の実現のために全国大会出場を目標にしました。小笠原選手や大谷選手、菊池投手も全国大会に出場し、そしてプロ選手になるという目標を達成し、今は夢だった世界につながりました。私の子どもが小学校の時、大谷選手と同じ野球チームにいたことがありました。大谷選手は「僕の夢はプロ野球選手になることです」と言っていました。変化球がうまくなりたいたかホームランを何本打ちたいという目標の先にしっかりと夢をもっていたのだと思います。彼ら夢の成功者は、夢を言い続けることで自分を励まし、夢に向かって行動を起こし努力を継続することが、すなわち目標の達成であり、その1つ1つが夢の実現に近づく一歩であることを教えています。



新年を迎え、皆さんも何かしらの夢や目標に思いを巡らせたのではないのでしょうか。政府が提唱するソサエティー5.0 (Society 5.0) は、狩猟社会以来の第5の新たな社会、未来社会、情報通信技術社会といわれています。予測不可能な社会ともいわれます。仮想と現実が日常生活にシステムとして組み込まれた社会の中で、夢を持つとか夢を語るとか、馴染まない時代になったように感じますが、今の世の中だからこそ、ぜひ、人間らしさ、若者らしさを夢や希望に託してほしいと思います。皆さんが思い描く目標は何のための目標か、目標の先にどんな夢を見るのでしょうか、応援したいと思います。

2019年は、日本や世界だけでなく、軽米町や岩手県でも政治や経済、スポーツ、身近な生活にたくさんの変化が予想されます。それらをきっかけに、一歩踏み出す年にしてください。合わせて、毎日を前向きに意識しながら生活していれば、遅かれ早かれ、大きく小さく、必ず良いことはあります。みんなで良い年にしましょう。

軽米町・一戸町海外派遣無事帰国 平成31年1月4日(金)~11日(金) アメリカ合衆国 ポートランド

本年度の海外派遣には、本校から大清水寛生君(2年)と土佐慈さん(2年)が参加、引率者として本校英語科石村隆彦先生が同行しました。7泊8日の主な日程は次のとおりです。

日程	内容
第1日 1/4 金	9:00 二戸駅発~東京駅 13:03~成田空港—飛行機 17:15 ポートランド空港 9:30...市内観光...ホテル
第2日 1/5 土	午前 ファーマーズマーケット見学 午後 ポートランド・アート・ベンチストアカデミー見学 ホストファミリーと対面→ホームステイ開始
第3日 1/6 日	ホストファミリーと過ごしました
第4日 1/7 月	バディ生徒と授業に参加 ダウンタウン散策など
第5日 1/8 火	バディ生徒と授業に参加 警察署・消防署訪問など
第6日 1/9 水	バディ生徒と授業に参加 さよならパーティ
第7日 1/10 木	ポートランド空港 11:38—
第8日 1/11 金	成田空港 15:22 成田空港駅 17:44~東京駅 東京駅 20:16~22:55 二戸駅 解散式



11日(金)23時前、無事に二戸に戻り、保護者の方と帰宅しました。研修の内容等は、後日報告会の様子と共にお知らせしたいと思います。写真は、学校ホームページからご覧ください。

冬寒合同学習会

平成31年1月7日(月)~8日(火)
会場:葛巻高等学校

昨年度に引き続き、国公立大学進学を目指す生徒に対して、互いに刺激し合う環境をつくり、学力の向上を図るとともに、それぞれの学校間で連携・協力する環境を構築することを目的に、合同学習会を実施しました。英語は葛巻高校上柿剛校長先生、数学は本校の米沢崇史先生と鹿俣航先生が講師を務めました。参加者は、大野高校7名(1年2名、2年5名)、葛巻高校8名(1年4名、2年4名)、軽米高校13名(1年7名、2年6名)の合計28名でした。

実施後のアンケートでは、「分からない問題や難しい問題についてどうしてそうなるのかをしっかりと理解することができたし、これからの自分の課題を見つけることができた。」「学校ではできない発展的な内容を学べた。」「他の学校の人と勉強することで自分ももっと頑張らないとという良い刺激になった。また、普段は教えてもらわない先生の授業を受けてみて、とても楽しかったし参考になった。」などの意見がありました。

